

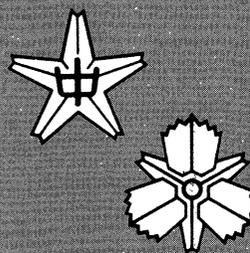


発行所

〒921
金沢市泉野出町3丁目10-10
石川県立金沢泉丘高校内

一泉同窓会

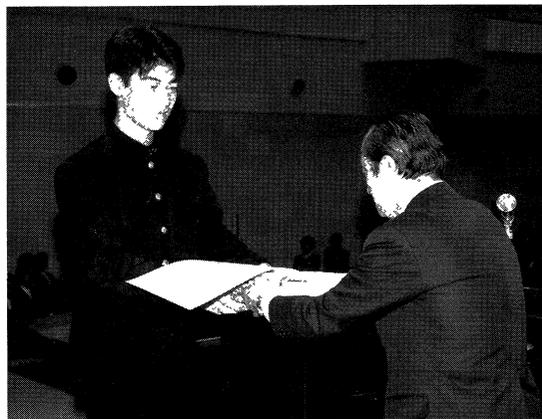
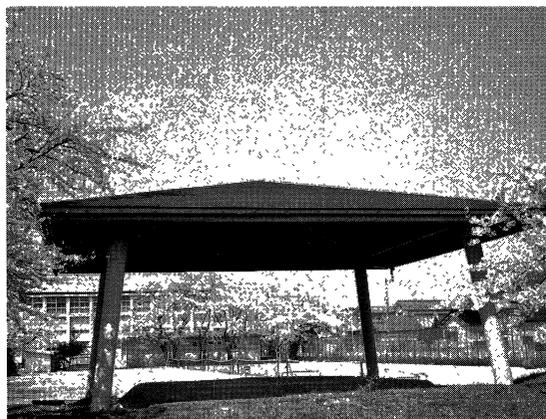
電話 (0762) 42-0211
1995. 6. 30. 発行



「一泉同窓会基金」事業始動

第1回「一泉賞」27名に

～基金目標額 1億円～



一泉創立100周年記念事業の大きな柱の一つとして計画された「一泉同窓会基金」が、1993(平成5)年10月15日に、澁谷亮治一泉同窓会会長を一泉同窓会基金理事長として、基金額7,500万円(100周年記念事業募金目標額1億5,000万円の半額)で設立された。

「一泉同窓会基金」は、21世紀に向けて、心豊かな人材の育成と母校の発展に寄与することを目的とし、母校の国際交流の推進と、学術・文化並びにスポーツの振興等のための助成に生かされる。

もとより基金事業は、基金から生ずる収益によって運営されるもので、母校に対する助成事業を充実していくには、基金の内容強化が肝要です。従って、発足後も、継続事業として基金の増額に努める予定となっています。そこで、基金額1億円を目標に、早速追加募金をお願いしたところ、814万5,000円のご協力をいただきました。今後共、引き続き、更なる募金のご協力をお願いしています。

基金の基本財産は、「公益信託泉丘高校教育振興基金」(5,000万円・非課税、但し、事業内容に制約あり)および「一泉創立百周年記念特別基金」

(4,000万円・課税)の両基金で構成されている。

1995(平成7)年3月31日までを平成6年度(第1期)会計年度とし、基金事業計画に基づき始動した。基金総額は1995年3月31日現在、約9,400万円。第1期事業費は163万9000円となった。

基金事業の一つとして、「一泉賞」が設けられた。この賞は、一中以来の「文武両道」と泉丘の「心身一如の発達につとめる」の校是にそい、3年間を通じて課外活動と学習活動を両立させた生徒を対象に選考され、第1回の受賞者は27名。

全日制が生徒会執行部活動4名、部活動16名(陸上2、バスケット男子、女子・野球・ハンドボール・サッカー・テニス・卓球・バドミントン・柔道各1、書道2、合唱・吹奏楽・放送各1)、生徒会委員会活動3名、ホームルーム活動3名の計26名。通信制では生活体験発表が1名となった。

第1回「一泉賞」の表彰式は、3月6日および3月12日(通信制)、卒業証書授与式に先立ち泉丘高校講堂で行われた。澁谷理事長から27名の生徒に、表彰状と記念品(『広辞苑』『ロングマン英英辞典』等、受賞者の希望する辞書類)、および図書券(1万円)が授与された。

「一泉同窓会基金」追加募金者名簿 (募金額 814.5万円)

《一中》

- 25期 北川金光
- 27期 米田経宇
- 31期 中島信悟
- 33期 宇都宮亮一、岡田一男、藤田誠一、吉見外武
- 35期 居村喜久治、牛塚藤雄
- 36期 川西米作、武田信次
- 37期 正見 寿
- 41期 小泉茂吉、林藤吉常
- 44期 村金七郎
- 45期 「桜誓会」 代表 石崎皓三(30)
- 46期 瀬川雅善、松井輝雄
- 47期 福岡二郎、銚田太郎
- 49期 森村幸雄、同期会 代表 斉藤弥吉 (100)
- 50期 音覚樹、鈴木陽
- 51期 木下純治、黒川隆、小林外茂雄
- 52期 上野達郎、平元孝一、前田芳典、宮元和衛
- 54期 小原徳寿、木越樹、酒井吏、牧本一夫、吉村誠恒
- 55期 鈴木恭仁

- 17期 遠藤一明、升谷一宏、葭野建二 (単位万円)
- 27期 笹木浩司
- 30期 中村健
- 31期 粟貴章
- 34期 喜多昭夫
- 37期 池野恒久
- 41期 吉田晴子
- 43期 八田文未栄
- 45期 土倉拓樹

《通信》

- 9期 釜谷鉄山
- 36期 富成りつ子

《法人》

- (株)岩倉建築設計(10)
- (株)金沢ニューグランドホテル(10)
- (株)澁谷工業(100)
- (株)天狗中田本店(50)
- (株)北國銀行(100)
- (株)山崎電気(10)
- (株)金沢信用金庫(30)
- (株)北川瀝青工業(10)
- (株)手取川生コン(10)
- (株)大和(100)
- (株)松村物産(50)
- (株)菱機工業(10)

《泉丘》

- 教職員 山本成智
- 7期 松本茂
- 8期 清水外喜男
- 9期 三谷成行
- 11期 船野一郎、井上孝
- 13期 和田秀雄
- 15期 崎田正倫、山口徹
- 16期 石垣英治

《一泉創立100周年記念事業募金者名簿一覧表》

「一泉」22号別冊、芳名漏れ

- 一中51期 安藤良一、吉岡清
- 53期 越能喜平、鞆安昭
- 泉丘4期 高田(篠田)美怡子
- 34期 中川裕美
- 35期 竹村(端崎)麻里

【平成6年度(第1回)一泉同窓会基金事業】

事業	対象	助成内容	助成額(円)
一 泉 賞	27名	表彰状・辞典・図書券授与	458,000
部 活 動	新聞部	学校新聞「いずみの原」増版	310,000
教 育 奨 励	第2学年	映画フィラデルフィア観賞	50,000
国 際 交 流	第1学年	資料購入・講演会・交流費(韓国修学旅行)	100,000
図 書	図書館	美術全集・科学雑誌購入	327,000
遠 征 用 バ ス	部	買い替えのための積立	300,000
学 習 補 助	通信制	テレビ購入	94,000
			計 1,639,000

●家庭からオフィスまでさわやかライフのお手伝い●



株式会社 ダスキン北陸

代表取締役 谷 本 大 (金沢一中57期)

本 社 : 〒921 金沢市横川 6 丁目63番0762 (47) 0985(代)

改装なった図書館・校史資料室

一泉創立100周年記念事業

一泉100周年記念事業の一環として、同窓会・PTA・教職員の三位一体で行われたのが、図書館・校史資料室の改修整備であった。泉丘高校図書館は一泉創立70周年を記念して、1959(昭和34)年にこれも三者の協力によって建設された。当時学校新聞「いずみの原」は、向学心と知的好奇心に燃えた生徒たちで超満員であったと伝えている。

しかし50年代に入ると、利用者も図書貸し出し率も下がり始め、新しい時代に即応する蔵書の充実や、空調など快適な設備設置等による図書館の活性化が急務となった。

校史資料室は1984(昭和59)年の新校舎落成を機に図書館一階に新設され、当時の同窓会事務局長西多外喜次氏や、瀬川図書課長、図書課員らによって資料が整備されたが、さらに各室の改装、保存機能の強化が必要とされ、100周年記念事業で図書館・資料室整備委員会(一中53期松下良委員長)が作業を進め、1993(平成5)年8月に整備を完了した。



<図書館・資料室整備改装募金懇志者一覧>

釣谷正人、田村昌俊、大田静夫、斉藤謙一、谷口澄雄、宮下博、普神貴行、倉田正明、浜名久雄、中村喜久治、宮口征子、谷口和恵、中田修、張江啓、西谷隆、新村健了、西野哲也、細川百合、山口浩洋、安田進一郎、加波憲三郎、楠禎一郎、中村章子、山崎裕、天川富美子、大高彰八、吉田亮一、西坂百代、草鹿堅一、大田稔、松川一雄、鎌木悠紀夫、疋田伸勝、後出定美、清水隆久、棒田實、小島義博、石田健、宮崎光二、北木邦男、黒川三郎、八講正司、三宅正敏、松岡正信、小島智伸、三宅信広、分校公平、山村治、池田英夫、小浦吉久、広瀬稔、紺谷亮一、竹守照、船登芳雄、中島勇夫、横山靖生、石浦義彦、永井洋、熊谷貞男、任田秀雄、金岡孝次、市野静夫、西谷朗、田島恒保、橋本秀一郎、長柄勝美、鍋岡利明、島田久明、本保義雄、清水郁夫、高橋正行、高橋健、山越光、村井輝邦、宮澤外與治、岩野紀夫、安井光太郎、塚野善蔵、藤井澄文、新谷富紗子、小川正英、小西優、足立満、稲垣一、正村健三、大山修平、北出美千代、鬼原直子、玉瀬宣秀、中田久美子、長谷勝彦、畠中正樹、平島敏彦、前田一弘、松本博光、宮本雅春、梅田和秀、藤井直樹、河上康一、宮崎謙治、宮崎忠夫、志茂克、室木直彦、卯野一郎、大野郁雄、加藤茂芳、根保成子、柄田竹男、寺田恒一、藤田耕造、三宅立美、宮田吉淳、盛田邦義、山本正一、吉村和人、多保田正廣、中橋大道、米田雅人、高田七郎、西出隆、浜本信一、山守司朗、加藤好宏、中田真砂、三津野真澄、押田邦夫、小石一寛、高橋威、野村知昭、久木周二、古瀬憲生、藪野秀一郎、山下一夫、山本孝子、室山洋子、井田重男、中山武久、東正一、表文廣、坂範子、竹内千恵子、永井尚子、中島輝夫、中村玲子、長村保宏、能沢正夫、濱岡信一郎、伊東和子、東野昭子、入道喜美枝、仙座剛、島田勝英、藤田洋子、中條丹む子、前田佐智子、中田裕己、東山泰己、土屋浩一、氏家佐喜子、橘隆三、堀立世、岩崎万里、蔭山静代、西捷三、杉原秀樹、平嶋直子、濱崎壽保子、長谷部保夫、寺西弘忠、野崎洋子、阿部羅春枝、福村豊、田川洋子、村田栄子、田中美穂、梶田幸治、藪下治、沼田陽子
書一幅 永田茂良、高川義一

【図書館・校史資料室整備改装費用】

項目	収 入 (円)	項 目	支 出 (円)
保護者協力金	14,449,693	閲覧室用机・椅子・カウンター新調	6,858,600
旧教職員募金	2,050,000	書棚、カーテン、蛍光灯新調	100,000
5年度教職員募金	1,905,000	閲覧室、司書室空調設置	4,650,000
過年度卒業生協力金	790,307	書庫、校史資料室用除湿器設置	500,000
		天井、壁、床張り替え	6,695,000
		物置設置	391,400
計	19,195,000	計	19,195,000

西川税務会計事務所

所 長 西 川 保 (一中57期)

石川県石川郡野々市町新庄1-288 TEL (0762) 48-4641

■設立 昭和47年



次期会長の指名を受けて

川北 篤
(一中55期・一高)

澁谷亮治会長が就任満10年の節目を機会に、私にその後をとということで、さる5月15日の常任委員会で委員の皆様のご賛同を頂き、来る10月15日の創立記念日の総会でのご了承を得てということではありますが、次期会長ということに成りました。

伝統ある一泉同窓会の、歴代会長が素晴らしい実績を挙げてこられたことを思うとき、至らぬ私としては危惧の念を禁じ得ません。

特に一昨年は、100年の伝統を積み重ね、さらなる飛躍を期するための、一泉創立100周年記念の諸行事が、たくさんの同窓生の皆様方の一致協力のもとに、多彩に繰り広げら

れ、天下に一泉同窓会の名声を、いやがうえにも轟かせたのであり、ご尽力賜った各位に心から敬意とお礼を申し上げる次第であります。

ところで創立100周年は終えましたが、間もなく、泉丘高校発足50年が迫ってきております。どうか皆様のさらなるご協力を得ながら、この取り組みをしなければならぬと考えておりますので、なにとぞ宜しくご協力下さるようお願い申し上げます。

時代は刻々と移りゆく中であって、社会は実に騒然たる状態ではありますが、私たちはかつて学び舎で培った精神を大切にしながら、一泉同窓会の絆を大切にしていきたいと念じています。

重ねていっそうのご指導をお願いしてごあいさつとします。

一泉同窓会常任委員会開催

◆1994年9月10日(土) 15時

於：泉丘高校大会議室

- 澁谷同窓会長、小西優泉丘校長あいさつ
- 一泉同窓会総会・懇親会
- 泉丘12・14・22・32期が運営を担当
- 10月15日18時から金沢東急ホテルに於いて開会。
会費8,000円で着席パーティー
- 決算・経過報告
 - 一泉基金と同窓会の会計年度をあわせる。
 - 平成5年9月1日より6年3月31日に至る決算書(案)を承認。
 - 『国事殉難者芳名録』を関係各期の寄付金で製作・発送。
 - 「一泉マップ」の利益で、母校へバス寄贈。
- 一泉同窓会基金
 - 追加募金を実施。募金者名を「一泉」で報告。
 - 公益信託として5,000万円認可。
- 80周年記念石碑『桜章校跡地』
 - 本多町公園ガケくずれに伴い、石碑を桜章校跡地へ移転
- 堀口渉一泉同窓会事務局長退任

- 10月の総会を機に事務局長を退任、後任は、4月以降事務局を補佐した正村健三氏(泉丘4期)。
- 堀口氏(一中45期)は、1986年(昭和61)より8年半の間、事務局長をつとめられた。

◆1995年5月15日(月) 18時30分

於：泉丘高校大会議室

- 澁谷同窓会長・中田修泉丘高校新校長あいさつ
- 平成6年度決算・平成7年度予算(案)承認
- 阪神大震災被災状況報告
- 一泉同窓会基金
 - 基金額 約9,400万円 事業費 163万9,000円
 - 一泉基金事業の一環として一泉賞を授与
- 役員改選
 - 澁谷会長以下役員の新辞意表明。
 - 澁谷会長の推薦を受けた、一中55期・一高(泉丘1期)の川北篤氏が満場一致の賛成で後任会長に指名された。
 - 新役員構成については、川北氏に一任。
- 一泉同窓会会則改正は、新執行部に委任。
- 平成7年度一泉同窓会総会・懇親会
 - 泉丘14期が主幹事となり、15・23・33期が運営。
- 10月15日(日) 18時より 金沢東急ホテル
17時30分 受付開始 会費 8,000円

HORITA 青果食品卸・小売 フルーツ ギフト

株式会社 堀 他

代表取締役社長 須 田 幹 雄 (泉丘3期)

本社・片町店 ☎23-7300(代)
大 和 店 ☎20-1146 (FAX) 20-1146

近 江 町 店 ☎21-0307(代) (FAX) 21-0130
カ ッ ト 工 場 ☎67-5700 (FAX) 66-0070

400名余が参加して和やかに

一泉同窓会平成6年度総会

平成6年度一泉同窓会総会並びに懇親会は400余名の会員が集い、10月15日午後6時から香林坊の金沢東急ホテルで開催された。

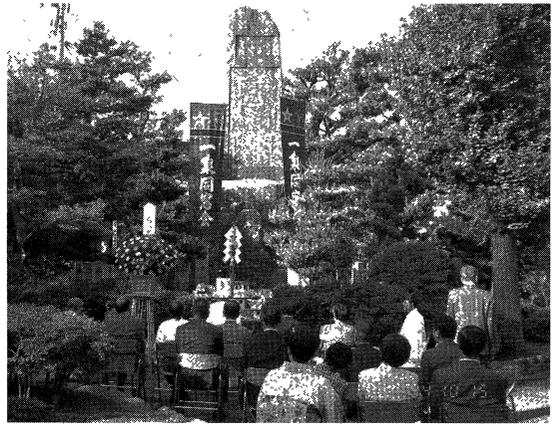
総会に先立ち午後3時から泉野出町の母校泉丘高校前庭の厳霜碑前で物故者慰霊祭が行われ澁谷亮治会長、小西優泉丘高校長はじめ同窓会役員、会員、学校教職員等が参列して物故会員の冥福を祈った。

午後6時からの総会は澁谷会長の挨拶、小西校長の母校近況報告、堀口渉事務局長の会務報告がなされ、引き続き、堀口氏の退任に伴う感謝状贈呈と後任の正村健三氏の紹介が行われた。

つづいて懇親会に入り、懇親会当番期を代表して泉匡隆氏(泉丘12期)が挨拶、最長老一中33期の藤田誠一氏の乾杯首頭で開宴。今年はアトラクションとして市内同好会の活発なエアロビクス演技が披露された。

例年のごとく、校歌や応援歌がうたわれ、テーブルごとに恩師・旧友との懐旧談で和やかな交歓の一夕となった。

やがて名残り尽きないままに午後9時、一泉同窓会のますますの発展と会員の健勝を祈念して終了散会となった。本年度の幹事は泉丘12・14・22・32期の皆さん。7年度は泉丘14期が主幹事となり、15・23・33期が運営を担当する。



(厳霜碑前・物故者慰霊祭)

【関東一泉同窓会平成6年度総会】

11月2日(水)東京都グランドヒル市ヶ谷にて251名が参集し、総会に引き続き、懇親会が行われた。総会では副会長に一中54期の宮川隆泰氏、監事に泉丘9期の西島幸夫氏の新任が承認された。

懇親会では「金沢今・昔」というスライド映写がなされたが、一中43期河毛二郎会長と、泉丘5期小西校長のりりしい生徒時代の映像が会場を沸かすなど、和気あいあいと進められた。幹事期泉丘15期は金沢からの参加者もあり、その創意に満ちた進行は大変評判であった。

なお7年度の幹事期は16期である。

【関西一泉同窓会平成6年度総会】

6月11日(土)中央区パノラマビアレストランにて135人が出席し、総会ならびに懇親会が行なわれた。金沢から美谷一夫、安高徹、普神貴行先生が招かれ、懐旧談に花が咲いた。幹事は、一中55期の浅井悦郎氏と、泉丘13期の元地健氏である。

【松任一泉同窓会平成6年度総会】

5月29日(日)松任市民会館で開催された。新会長に一中54期の板尾達雄氏が選任され、引き続き懇親会が行われた。

加賀なま麩の元祖

株式会社

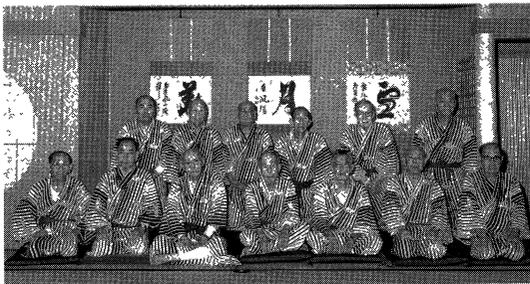


〒920 金沢市二宮町ハ8-2
☎(0762)68-3822(代)・FAX67-5831

代表取締役 中田 成正 (一中57期・泉丘3期)

同窓生の集い

【一中39期（昭和7年卒業）七桜会例会】



恒例の七桜会例会の日、10月6日は、秋晴れのさわやかな日となり、香林坊大和アトリオ裏に定刻に全員集合し、迎へのバスで一路「あたらしや」（湯涌温泉）へ直行する。

将に80の齢を迎えた我々学友は、大分弱って来た。出席の通知があったが前日になり欠席という方もあり、今年は関東より高松・高井君が来てくれたが13名しか集まらなかった。もう同期の死亡者も111名に達し、淋しい気がする。

然し参会した学友は、今日出席出来た幸せをしみじみ感ずる。今後も機会をつくり、再会を期する事にする。

今回、南君が、我々七桜会が昭和29年に北問樓に鏑木・吉野・宮沢の三先生を迎えて卒業して20年を過ぎて初めて会合した時の写真を初め、その後20数回に及ぶ会合写真を持参してくれ懐かしい想いに打たれた。

定刻になり岩脇君自作の抹茶碗にてお茶を一服いただき懇親会に入る。楽しい一ときを過ごし、せせらぎ、虫の音を聞き乍ら床につく。

翌朝食後、バスで帰路につきも途中角間の金沢大学の新校舎を見学、香林坊に来て一杯のコーヒーで、次会合を期待して別れた。

参加者は次の通り

浅香鉄次、岩脇他計雄、高井誠二、高松一吉、長沼久喜、西田外喜雄、福田外喜二、三須外男、室賀喬、南為二、村田尚一、吉岡秀雄 山瀬芳男

【一中42期（昭和10年卒業）十桜会全国総会】

金沢一中を昭和10年春に卒業したわれわれ42期生（十桜会と称す）は毎年秋に北陸、関東両地区で交互に全国総会を開いて懇親を深めている。

昨年は母校一泉100周年祭への参加に合わせて湯涌温泉で総会を開いたが、本年度は例年の関東地区周辺の温泉での会合から趣向を変えて東京都内の見学を企画した。

平成6年10月11～12日の両日、都内五反田にある『ゆうぼうと』ホテルで第23回の総会を開催し、恩師藤田先生ご夫妻を初め、全員および夫人を含めて35名が集まった。

藤田先生は本年米寿（88歳）を迎えられたが、益々お元気で各地にお出かけのご様子。毎年十桜会にご出席を賜り、感謝に堪えない。会員の動静について例年のように会誌にまとめて配布し、喜寿を過ぎた出席会員同士健康を祝し、無事を喜びあった。しかし、従来元気で活躍していた雄谷重夫兄が9月19日に急逝された報告があり、ご冥福を祈るとともに一同驚いた次第で思い出話に時を過ごした。会員も発足当時から半分以下に減少、更にその半分以上の諸兄が病床にあるいは通院中であり、また、自宅で体調を気遣って自重、欠席した人も多く、会誌を読みながら心痛む思いだった。

翌12日にはバス1台をチャーターして、都内見学を行なった。泉岳寺に参詣し、東京臨港道路を經由して昨年竣工したレインボウブリッジを渡り、天王洲にある第一ホテル28階で昼食して東京湾を眺め、午後からは両国の江戸博物館を見学。江戸時代から現在に至る文化の変遷を、模型を通じて知ることが出来、大変参考になった。

出席者は次の通り

藤田先生ご夫妻、浅本行雄、石田勝男夫妻、葛西満、久間賢三、久保木信夫、久保田全、鴻野五八夫妻、駒居三郎、柴野勇、高島有幸、中谷郁夫、中谷外作、西村忠恭、熊谷俊夫、二口一雄、舟田一雄、古沢英雄夫妻、諸江敏夫夫妻、山内亮、山本欽一、吉村元一、井口千里、吉田道妻

久保田全記

株式会社 南商

代表取締役会長・社長



NANSHO

宮 下 明

(泉丘4期)

〒920 石川県金沢市示野西10

TEL 0762-68-8888 FAX 0762-68-7152

【一中47期(昭和15年卒業)十五桜会】

本年の十五桜会は、昨年の箱根温泉に続き関西の有馬温泉で開催することになっていたが、阪神大震災のため北陸に変更し、4月12日同期生34名が母校に集まった。われわれが一中時代に植樹した桜花が満開の下、巖霜碑に参拝、100周年記念資料室を見学したが、亡き宮沢先生が大事に保管していた50年以上も前に自分たちが描いた本多町校舎や、新校舎の絵を懐かしく眺め、一中時代を偲び感動の声を発するものもいた。

母校から粟津温泉「のとや」へ直行する貸切バスの中で、兵庫県に在住する4名の同期生に見舞金を送ることが決定した。色紙の寄せ書きは「頑張れ」「一中スピリット」と激励の言葉が並んだ。

午後6時から十五桜会総会、懇親会を開催。金崎幹事の挨拶、大蔵幹事の一年間の経過報告後、東京の福岡幹事の音頭で乾杯した。一中卒業以来初めて出席した堀井君、大手術にもかかわらず東京から奥様と一緒に出席された中川君らを中心に話題が尽きないようであった。神戸で震災を経験した木村君は地震の恐ろしさについて熱っぽく語ってくれた。地震から3日間はだれも助けてくれないから自分で自分を守らなければならないので、最小限の水や食糧と少々のお金をいつでも用意しておく必要があると教えてくれた。

翌13日「のとや」をバスで出発し流れ解散になったが、母校の前で下車するもの、兼六園の満開の桜を楽しみ、さらに同期生3名が出品している石川県現代美術展を訪ねるもの等、快晴の桜花爛漫の一日を楽しみ、来年の有馬温泉の再会を約して別れた。 平7. 4. 13大蔵吉夫記



【一中51期(昭和19年卒業)一桜会】

平成6年10月28日、辰口温泉・まつさき旅館で。恩師 東正雄先生、二木耕一先生、荒野昭、井澤郁朗、石田豊、伊藤栄一、太田一雄、大村義雄、大森三郎、葛西義雄、金森義、河原善一、木田威俊、北中久一、木下純治、越田保、越村吉郎、小松弘伯、西能史朗、佐野豊、島和夫、園部哲三、高村謹次夫妻、竹田徳太郎、塚本増能、寺中吉造、中井泰一郎、中川忠雄、中野利男、長村夫人、西村康賢、西村和夫、新田勉、平松工人、藤澤正清、朴木春夫、松田良三、松本実、室谷与三松、本野文雄、水落出、宮太郎、宮澤幸夫、宮野良雄、宮林和彦、吉岡清



【関東金沢一中55期会(昭和23年卒業)】

平成6年9月9日(金)夕、都内水天宮のロイヤルパークホテルにて金沢一中関東55期会を開催した。これは同期の大西章君の東洋建設社長就任を機に関東在住の同期の久瀧を叙したいとの声が盛り上がったためである。

出席者29名。金沢より柏野、関西より片瀬、浅井、中京より茂村の諸兄の参加があり、盛会となった。即ち大西君への激励の辞交々あり、同期を代表して小堀君が「加賀獅子頭」を贈る。この頃ドイツ・バイエルン歴訪中の川北篤君より「会の成功を祈る」との飛電もあり、既に初老の我らも飲むほどに「青春回帰」で熱い血潮が甦る秋の夜長となった。関東55期生健在也。(文責 西田)

【泉丘10期(昭和33年卒業)泉寿会ハワイの旅】

1994年7月23日、泉寿会の一行22名は、ハワイの旅へ出発。先ず「この木何の木…」でおなじみ

精神科・神経科・内科

結 城 病 院

院 長 結 城 幸 彦 (泉丘4期)

金沢市円光寺3丁目21番7号

TEL (0762) 41-8228(代)

FAX (0762) 41-8229

のモアナラグーデンへ行きモンキー・ポットの木の下で記念撮影。次にいきなり日本語の通じないアロハスタジアムのスワップミート（青空市）で買物。



シェラトン・ワイキキ・ホテルのオーシャン・フロントの部屋で4泊。青い空・青い海・陽射しは強いが心地好い。夜のベランダからの眺めも良い。対岸の明り（ネオンは無い）とダイヤモンド・ヘッドのシルエット。ハワイアン生のバンドと波の音。海からつづく濃い藍色の夜空。まさしく命の洗濯！

フラダンス・ショーで金子兵衛君が、アトラクションで腰振りの妙技を発揮。飛入りの第一人者に認定されて、大拍手を受ける。

2晩目は、サンセット・ディナー・クルーズ。スター・オブ・ホノルル号のファイブ・スターコース。最上階の特別キャビンでのディナーショー。船中からの夜景は殊の外ロマンチック。

セスナでの7島巡り、カウアイ島観光、ゴルフ、ポリネシアンセンター、サブマリン等オプション・ツアーで、思い思いの観光を満喫。真珠湾上を低空飛行した友は、不戦の日が来ることを祈念して合掌したという。ダイヤモンド・ヘッドの頂上登山に挑戦した友もいた。そっくりさんショーで有名なレジェンド・ショーで、エルビス登場に涙ぐむ女性も出た。

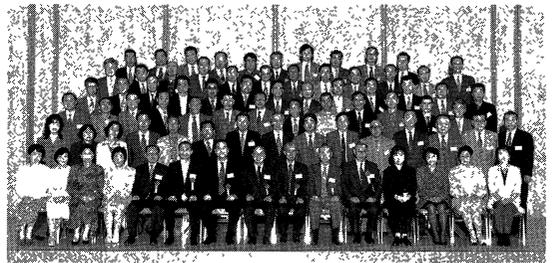
最終日のさよならパーティーは、ハワイNo.1の和食処京やで。泉寿会恒例のビンゴゲーム。名残は尽きないが、泉丘高校校歌が、ワイキキの夜にこだまして、お開きとなる。

成田空港に着いての帰国第一声、暑い!!

泉寿会では、今後第2弾、第3弾の海外旅行を企画し実行する予定です。（大谷孝弘記）

【泉丘16期（昭和39年卒業）卒業30周年同窓会】

泉丘16期同窓生は卒業30周年を祝して、昨年10月8日、金沢シティモンドホテルで記念同窓会を開催した。在学中のクラス担任の先生総員19名を御招待、内7名の先生方の出席を戴き、同期生80余名と共に大いに杯を空け楽しく語り合った。又関東一泉同窓会は当期が来年の幹事期である為、同会の成功に向って同期生の一致協力を確認し盛会裏に終了した。翌9日はツインフィールズに於て記念ゴルフコンペを開催し晴天の下、22名の同期生が自慢の腕を競い合った。（広瀬靖久記）



修学旅行は韓国へ！

泉丘高校2年生400余名は、6月6日、3泊4日の日程で韓国へ修学旅行に出発した。

韓国への旅は、国際化教育を視点において決定され、1年次より事前学習を積んで実施された。

朝鮮・韓半島史の研究者である、石田毅士郎氏（泉丘14期）の講演「日本と韓国との交流史」を聞き、生徒は、韓国・朝鮮が「近くて遠い国」ではなく、「近くて近い国」との認識を深めたようである。

大韓国民団石川県地方本部事務局長の成奎昌氏（泉丘4期）の講演「韓国事情」では、成氏一家の流転離散の歴史や、近代における、日本と韓・朝鮮半島との支配・服従の不幸な関係史に触れ、日本が国際化の進展の中で、他国民に信頼され、心からの友好関係をひらいていくためには何が必要かを問いかけ、考えさせるものであった。

ソウルでは五山高校の生徒との交流も予定されている。

手塩にかけた創り味



本店 〒921 金沢市弥生1丁目17-28
TEL (0762) 41-4173/41-6003

●名鉄丸越店 ●広小路店 ●アトリオ店 ●百番街店 ●金沢南店

金城 大根 寿し
加賀 金 城 漬
ごり佃煮・くるみ煮
ふぐの粕漬・糠漬

時代をこえて、
世代をこえて。

伝統の弓道部復活へ OBの熱意で

金沢一中弓道部OBの熱意により、泉丘高校内に弓道部復活の運びとなった。OBは42期高島有幸、49期石田直行、50期山形周一郎氏らで平成4年より、数回学校へ出かけ交渉の結果、平成5年に弓道稽古希望者が5人出てきたので、生徒議会で生徒会規約に従い同好会結成が承認された。平成6年現在、同好会は女子14名、男子3名で、秋の新人戦から出場することができた。7年度には部に昇格し、生徒会予算も確保できる見通しとなった。

高島・山形両練士は、松任や金沢で道場を借り生徒を学校から自家用車で運ぶなどして指導されている。なお、6年4月赴任の本多教頭が弓道5段であることから、学校内でも巻き藁射などの練習に励めることになった。校地南隈の、旧一中時代の農場横の桜の樹に囲まれた練習場は、相撲場になっており、校内のどこかに本格的な練習場を建設できればと思われる。

なお、一泉弓道部OB会が6年初めに結成された。会長石田、顧問・指導高島、幹事長・指導山形である。OB会員は現在24名で、一中・泉丘OBの入会を募っている。

一泉弓道OB会
事務局 山形周一郎
(一中50期)
〒920 金沢市菊川2
丁目20番8号
(電話 0762-21-6756)



美術展開催や写生会 一泉桜美会の活動盛ん

<平成6年度の活動>

- 第18回春季小品展(3月3日～8日)
金沢市本多町エルフ金沢アートギャラリーで開催した。41名の出品があり、会期中に総会と懇親会を開き盛況だった。
- 第22回一泉桜美会美術展(9月8日～13日)
金沢市香林坊大和8Fホールで開催した。前年の一泉創立100周年記念美術展に引き続いての開催になるので、黒田尚文(一中29期)氏から、江尻外茂吉・祐子夫妻(泉丘32期)まで、日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真・デザイン等各部門にわたり77名の出品があった。泉丘卒業生と、県外からのものが多くなった。会場には同窓生やその家族が多数訪れ盛況だった。会期中出品者の懇親会を開き親睦を深めた。
- 秋の写生会(10月29日～30日一泊)
柴垣海岸は平成元年春の写生会に続いて2回目になるが11名参加。夕焼けの美しい柴垣海岸や紅葉の妙成寺周辺のスケッチを楽しんだ。
- 柴垣スケッチ小品展(12月14日～25日)
香林坊教育会館2Fロビーで開催した。秋の写生会参加会員の作品を展示し、好評だった。
- 桜美会新年会(2月26日)

<平成7年度行事予定>

- 総会 4月28日(金)
- 小品展 7月6日(木)～11日(火)エルフ金沢
- 桜美会展 9月か10月香林坊大和
- 秋の写生会 11月11日～12日 富来町
- クリスマスパーティー
- 桜美会会長 藤井肇(泉丘4期)
- 事務局長 判三教(泉丘4期)
- (〒920金沢市東山2—25—32)

私たちは性能という言葉をもうそろそろ
環境のために使おうと思う。

石川県日野自動車株式会社

取締役社長

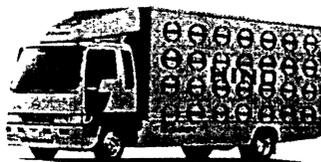


藤井 修 (泉丘4期)

〒920-01 金沢市南森本町へ75番地1

トラックを好きになってください。

日野自動車



ライジング

RANGER

新登場

○シートベルトを忘れずに。○スピードひかえて安全運転。

国立志向で高水準の母校進学状況

今年3月の泉丘高校の卒業生は、403名（男子233名・女子170名）であった。昨年までは1クラス45名制の10クラスで、445名～50名の卒業生数であったが、今年からは40名制の時代に入り受験生数も10%減っている。

泉丘高校生の受験傾向は大都会地区のそれと異なり、国公立大を受験しない早・慶・同・立などの私立大専願者は24名で少ない。受験生の多くの入試戦略は、1月の一次の大学入試センター試験の結果を見て、2月の私立大入試で合格先を確保しておき、次に2月末から3月の二次の国公立大の前・後期入試で勝負しようという形である。国公立大の前・後期入試は、以前の一期・二期の区別と異なり、同じ大学・学部でも異なった試験方法で、多様な能力を持つ学生を確保しようという配慮で行われている。

金沢大学志望者は年々減少しており、今年、前期は100名を割った。後期はそれほどの数になっていない。昭和50年代初期までの金沢大学志望者が250名前後の多数であったことから見ると、昔日の感がある。県内受験減少分だけ、県外の難関国立大への挑戦が増えている。一方、未定者（浪人）が4分の1を割るというのも、ここ数年の傾向で、従前の3分の1前後とは様相が変わっている。これは、現役で合格しようと気を引き締めての3年間の継続した受験学習が功を奏しているからである。

金沢大合格内訳	
文学部	11
教育学部	11
法学部	15
経済学部	11
理学部	5
医学部	6
薬学部	6
工学部	20

ただし、女子の未定者が理系で36名もいて、うち医薬志望者が大部分である。女子の理系の学力を伸ばさせることが、今後の進路指導の課題の一つになっている。

金沢大合格者数は85名であった。北陸外では大阪25、東北25、名古屋15、筑波12、京都・東京工・神戸11、北海道10、東京9、お茶・奈良女各6、一橋5が目立ち、泉丘高生が、全国各地の有名難関国立大に毎年幅広く進出するという趨勢は定着している。このように特定地域に偏らず合格者が散開するという高校は全国でも例がない。これは金沢の地の利ということもあるが、特定の大学に数をそろえようというブランド重視に背を向けて、個性重視という基本線が受験指導に貫かれているからである。

私立大学では、立命56、同志社45、関西39、青

最終進路先内訳	
国立大	226
公立大	14
私立大	62
各種大	2
公立短	2
私立短	2
専門	2
未定者	90

学23、早稲田19、東京理科18、慶応16、北陸14、中央13、法政11、関学5、上智4と合格者を出した。例年、この数が国立大同様に関西・関東の均衡がとれていたのに今年は関西系私立大の増加が目立った。これは関西系が金沢で入試を行っている故もあり、長期不況が、大学受験にかかる費用節約という家計への微妙な影響があると思われる。

東大進学者数が例年少ないことは、隣県ライバル校等と比較され、外部からは問題とされているところである。泉丘高からの東大志望者が20人前後と少ないのは、校内においては、本人の志望する大学第一という指導配慮が優先しているからである。

金沢大志望者が減少する傾向も問題にされている。経済成長による家計の余裕が、県外志向を高めた面は否めない。3年間一貫した進学指導で、生徒の平均的な学力が上昇し、2年次の落ち込みが見られなくなったことも見落せない。

教育学部は児童・生徒数減で教員採用が少なく、小中の教員志望の意志がよほど堅くないと、進めない学部になってしまった。工学部が20人と少ないのは、理工系志望減少の最近の風潮に流されているのではなく、東北、大阪、名古屋、東工大、京都の工学部等と標的が拡散しているからである。昭和30年代後半から40年代にかけて、毎年金大工学部の合格数が50人台を確保し、泉丘出身者の独占場であったのとは比ぶべくもない。世界各地の企業や研究所で活動している人にとっては、泉丘・金大出身の後輩が減少することはいささか寂しいところであろう。

3年生の最後の段階においては、一律の学習や指導は影が薄くなった。進学指導の担当の先生方は、受験校の多様化、入試形態の複雑化に対応して、綿密に検討を重ね、生徒各人の学力や潜在能力を分析し指導されている。これが生徒自身のそれぞれの目標に対応した自立した学習とマッチすれば、受験戦争を成功裡に乗り切るといえることになる。今年もそうであったようである。

3年生の最後の段階においては、一律の学習や指導は影が薄くなった。進学指導の担当の先生方は、受験校の多様化、入試形態の複雑化に対応して、綿密に検討を重ね、生徒各人の学力や潜在能力を分析し指導されている。これが生徒自身のそれぞれの目標に対応した自立した学習とマッチすれば、受験戦争を成功裡に乗り切るといえることになる。今年もそうであったようである。

阪神大震災の惨害

〈同窓二人逝く〉 一泉同窓生では、泉丘42期理数科出身、神戸大学工学部大学院生、素材物性工学専攻の今英人君と、45期普通科出身、理学部化学専攻2年生の梶達雄君の二人が下宿の倒壊で犠牲となってしまいました。前途有為な二人であっただけに、惜しみてもあまりある死でした。

〈家屋の全壊と半壊〉 住居の全壊は、一中が8人、泉丘が10人、不明が2人でした。うちマンション全壊が5人。半壊は一中が12人、泉丘が19人、不明が3人であったようです。激震地区に居住の方は530人前後でしたが、半壊とまではいなくても、家財家具がめちゃくちゃ、塀の倒壊、壁のひび割れ、ライフラインの切断、一時避難という方が数多くでした。

これに対し期別に救援・義援募金や、関西地区中心に「元気を出す会」などを開催しています。

〈家屋全壊者〉

一中31期	岩田 繁雄	泉丘3期	津久井剛郎
38期	駒井 知包	4期	上出 治男
40期	水落 昇	6期	渋谷 正之
47期	北野 直治	9期	川本 久子
49期	五十嵐三郎	19期	山本 俊夫
54期	安藤 康雄	36期	指江 尚史
55期	齊田 直行	38期	板垣 道生
56期	嶋田 勝次	39期	山本 司
		42期	越村 英世(下宿)
		43期	西野日出樹(下宿)

なお、事務局の不幸で返信用葉書に住所氏名欄を落としたので、お名前を把握出来なかった方が2人ありました。

金沢一中・桜章健児『国事殉難者芳名録』

世界の国々の衆智を集めても、なお戦火が消え去ることのないのは悲しいことだが、勝っても負けても、戦争で一番「泣きを見る」のはいつでも市井の庶民である。

明治以降敗戦に至るまで、一中同窓先輩の大半は、戦争に無縁であることを許されず、国のため、一家のためという一途の思いで戦場に赴いた。そして、春秋に富んだ一身を、文字通り水漬く屍、草むす屍と化して「平和の礎」となられた方が500名近くを数える。超弩級航空母艦「加賀」と運命を共にした艦長、レイテ島で玉砕した聯隊長、シベリア極北の地に埋められる一兵卒……人それぞれの悲運は痛惜の限りである。

『国事殉難者芳名録』は、母校創立100周年を記念して、星霜と共に忘れ去られていくこうした方々の御名を記録に止め、その御冥福を祈るとともに後世に伝えたく、有志数人で編集した小冊子である。
(一中38期 永井正三)

一中最長老谷惠吉郎氏の死を悼む



満100歳をあと2ヶ月で迎えられるという今年2月に谷氏(一中20期)がとうとう逝去されました。一泉同窓生の中では最高齢の方でした。立派な経歴で、而も優しく穏やかだったそのお人柄を偲んで、充分とは申

せませんが追悼の一筆をさせていただきます。

谷氏は金沢一中、四高を経て、東京帝大を卒業され、卒業と同時に海軍の造兵部門に入られ、一貫して無線通信部門最高の頭脳として活躍され、世界に冠絶した多々の業績を積まれたと仄聞しています。

更に海軍代表として度々国際的な無線の会議に出席され、有名な長岡半太郎氏の片腕としても活躍されたとお聞きます。練達なそのフランス語を駆使され、活躍されたなど多くの語り草が伝えられているようです。そして96歳になられた平成3(1991)年にジュネーブに本部のあるITU(国際電気通信同盟)から表彰を受けられ、その輝かしい国際的な活躍に華を添えられました。

最後に私事ですが、谷氏と私のご縁は昭和53年度の名簿編纂の頃からで、電話で最後の聲咳に接したのは昨年の暮でした。谷氏の七七忌法要は、幸子夫人が来沢されて相當されました。そして真光院誠直惠覚居士の法名で金沢市山ノ上町の光覚寺の奥津城で静かに永遠の眠りについておられます。
平石英雄(一中41期)

一中46期『嚴霜年報』第5号発行

一中46期クラス会では、毎年『嚴霜年報』を発行し、平成7年度は第5号を目下印刷中です。

B6判大、約100ページの小振りな文集で、本年7月開催の46期総会で会員に頒けられる予定です。ご希望の方があれば実費でお頒けいたします。

お問合せは、一中46期クラス会事務局 松本忠男まで。

(電話0762-61-1611)



『国事殉難者芳名録』はご希望の方に無料で頒布します。郵送料として切手240円を同封の上、同窓会事務局へお申し込み下さい。

平成6年度中に図書館の「一泉文庫」へ寄贈頂いた同窓各位の著書は以下の通りです。
ご寄贈頂いた方々に厚く御礼申し上げます。

寄贈者	著書
竹内 外史 (一中50)	線型論理入門
戸部新十郎 (一中51)	兵法秘伝考 伊藤一刀斎(上・下) 明治剣客伝
小林 司 (一中53)	ホームズのヴィクトリア朝 ロンドン案内〔共著〕 シャーロック・ホームズへの旅〔共著〕
秋田 武彦 (教諭心得・教練)	ポナペ島戦回想記〔共著〕 ポナペ島戦記
さつき会	繚乱のさつき〔文集〕 新田正之(一中47)編
岩田 繁雄 (一中31)	一子地
横越 英一 (一中45)	遙かなる想い〔遺稿集〕
金田 心象 (教諭・習字)	心象館〔パンフレット〕
藤田 英典 (泉丘16)	学校文化の社会学〔編著〕 教育研究の現在〔編著〕 学校=規範と文化〔編著〕
輪島 士郎 (泉丘7)	T. S. エリオットの誌と真実

寄贈者	著書
川西 白柿 (一中36)	寒鮮〔句集〕
深井 寛 (一中53)	石川県党の戦後の記録 第一巻
野村 庄吾 (泉丘2)	人はかく笑う〔編著〕
庄田 常勝 (泉丘22)	他者の耳〔共訳〕 弔鐘の文学〔共訳〕 主体と変装〔共訳〕
平沢 直次 (一中36)	統制製造の思い出 調節弁
浦 茂 (一中34)	御即位・大嘗宮の儀に参列して
高井三樹郎 (泉丘18)	<続>ビジネスマニュアル
赤 摂也 (一中51)	人間と数学
山森 青硯 (一中33)	郷土工業物語
高沢 忠 (一中41)	みちのくの誌
村北 清栄 (一中41)	貴晩晴
上野 広 (一中47)	草深甚四郎
藤 秀翠 (一中11)	親鸞聖人素描
同期会誌 (一中46)	巖霜年報No.4〔文集〕

充実する一泉校史資料室

昭和2年から40年まで、
一中・泉丘高校を通じて
回画・芸術を担当された
宮沢外与治先生は、平成
5年1月に他界されました。
チャンの愛称で慕わ
れ、ご慈愛を忘れ得ぬ同窓生が多いと思います。



この度ご子息の宮沢幸夫氏(一中51期)から先生
の油絵遺作4点(「雨の山麓」3号、「海岸風景」
8号、「雪の山」1号、「柴山瀾」3号)を同窓
会に寄贈頂き校史資料室の壁面に彩りを添えるこ
とになりました。同窓諸氏の鑑賞を待っております。

なお、学校の応接室には、昭和63年に先生の87
歳のおりに寄贈された「快晴の富士」12号が飾ら
れています。

「一泉」第24号の広告は泉丘5期・6期にお
願いします

あとがき

事務局不慣れのせいもあり、23号の発行が遅
れ、申し訳ありません。6月中にお渡しできると
いうことになりました。

運動場側のソメイヨシノやケンロクエンキクザ
クラもますます元気で成長しています。5月に入
って、秋田角館に住む同窓生から、その名物ジ
グレザクラを贈ってくれるという話が舞い込ん
できました。桜章校はますます多様化の花が咲き
おうことになるということでしょうか。

皆様のご投稿をお待ちしております。紙面の都
合上、400字前後でお願いします。スナップ写真
が添えてあればなおありがたいです。

24,000余名会員のますますのご健勝をお祈り致
しております。(正村記)

●「一泉」編集室

正村 健三(泉丘4期) 浅香以都子(泉丘10期)

小林 弘子(泉丘12期)

題字・坂野 雄一(一中54期)